

雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベル2（火口周辺規制）が継続＞

11日夕方から、ポンマチネシリ火口付近を震源とする火山性地震が増加しています。

2025年9月以降、ポンマチネシリ96-1火口では活発な噴煙活動が続き、ごく小規模な噴火が時々発生しています。

火山活動の活発な状態が続いており、ポンマチネシリ火口から約500mの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

今後、火山活動がさらに高まった場合には、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げる可能性があります。

【防災上の警戒事項】

ポンマチネシリ火口から約500mの範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体などの指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○活動概況

・地震の発生状況（図1、図3-④⑤）

10日頃からポンマチネシリ火口付近を震源とする火山性地震が増え始め、11日夕方以降、さらに増加しています。13日11時までの前24時間の地震回数は137回（速報値）で、地震活動の活発な状況が続いています。

・地殻変動の状況（図3-③⑥、図7）

ポンマチネシリ火口近傍の阿寒富士北2観測点では、2025年9月12日以降観測されている同火口方向が上がる傾斜変動は、5月9日頃から火口方向が下がる変動に転じていますが、火口付近浅部は膨張した状態が続いていると考えられます。

GNSS連続観測によると、主に東側山麓の観測点で2025年8月末頃から山体付近の膨張を示すと考えられるわずかな伸長が続いています。

・噴気など表面現象の状況（図2、図3-①、図4～6）

3月16日以降、噴火は観測されていません。

2025年9月12日以降、ポンマチネシリ96-1火口の噴煙の量が増加し、活発な状態です。

11日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、2025年9月の噴火後に実施した観測（2025年9月16日）と同様に96-1火口の噴煙の温度が高い状態であることを確認しました。また、同火口の噴煙活動は引き続き活発な状況でした。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、北海道、地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネジー・環境・地質研究所及び機動的な調査観測・解析グループのデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図10mメッシュ（火山標高）』、『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

・火山ガスの状況（図3-②）

気象庁や機動的な調査観測・解析グループ（北海道大学・東京大学・防災科学技術研究所）が2月以降に実施した現地調査による火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり300～400トンの状況です。

○活動評価

雌阿寒岳の火山活動は活発な状態です。引き続き、ポンマチネシリ火口から約500mの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

11日夕方以降、ポンマチネシリ火口付近を震源とする火山性地震が増加しており、今後、火山活動がさらに高まる可能性も考えられます。

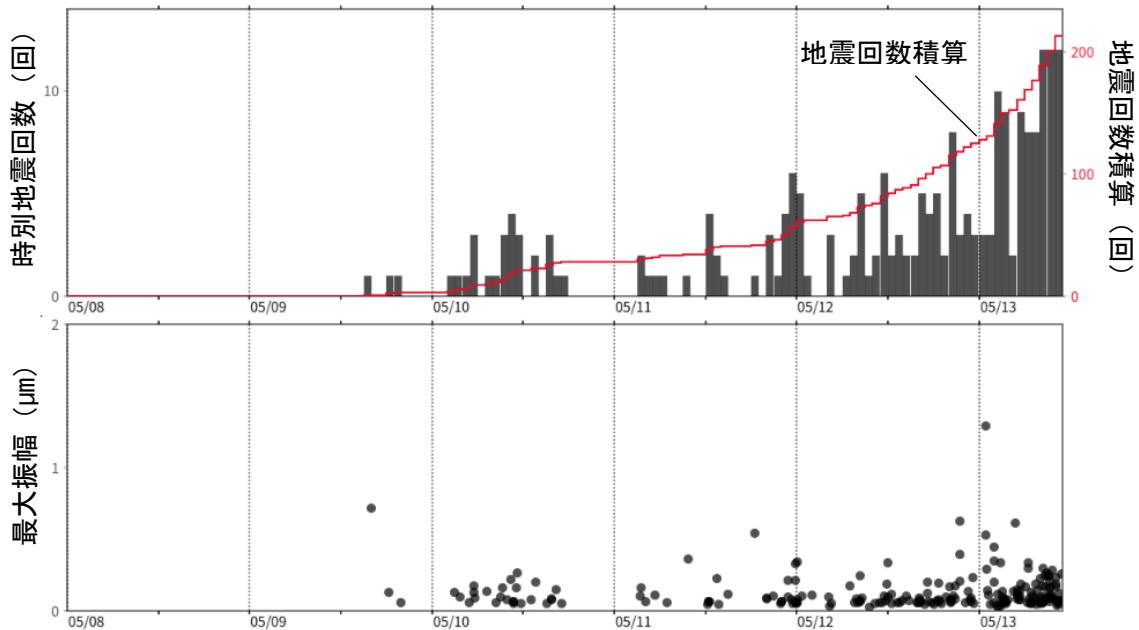


図1 雌阿寒岳 火山性地震の発生状況（2026年5月8日00時～13日11時）
上：特別地震回数（速報値） 下：オンネトー南東観測点南北成分の変位最大振幅



図2 雌阿寒岳 南東側から見たポンマチネシリ96-1火口の噴煙・噴気の状況（上徹別監視カメラによる）

・96-1火口の噴煙は、2025年9月12日以降増加し、その後も活発な状態が続いています。

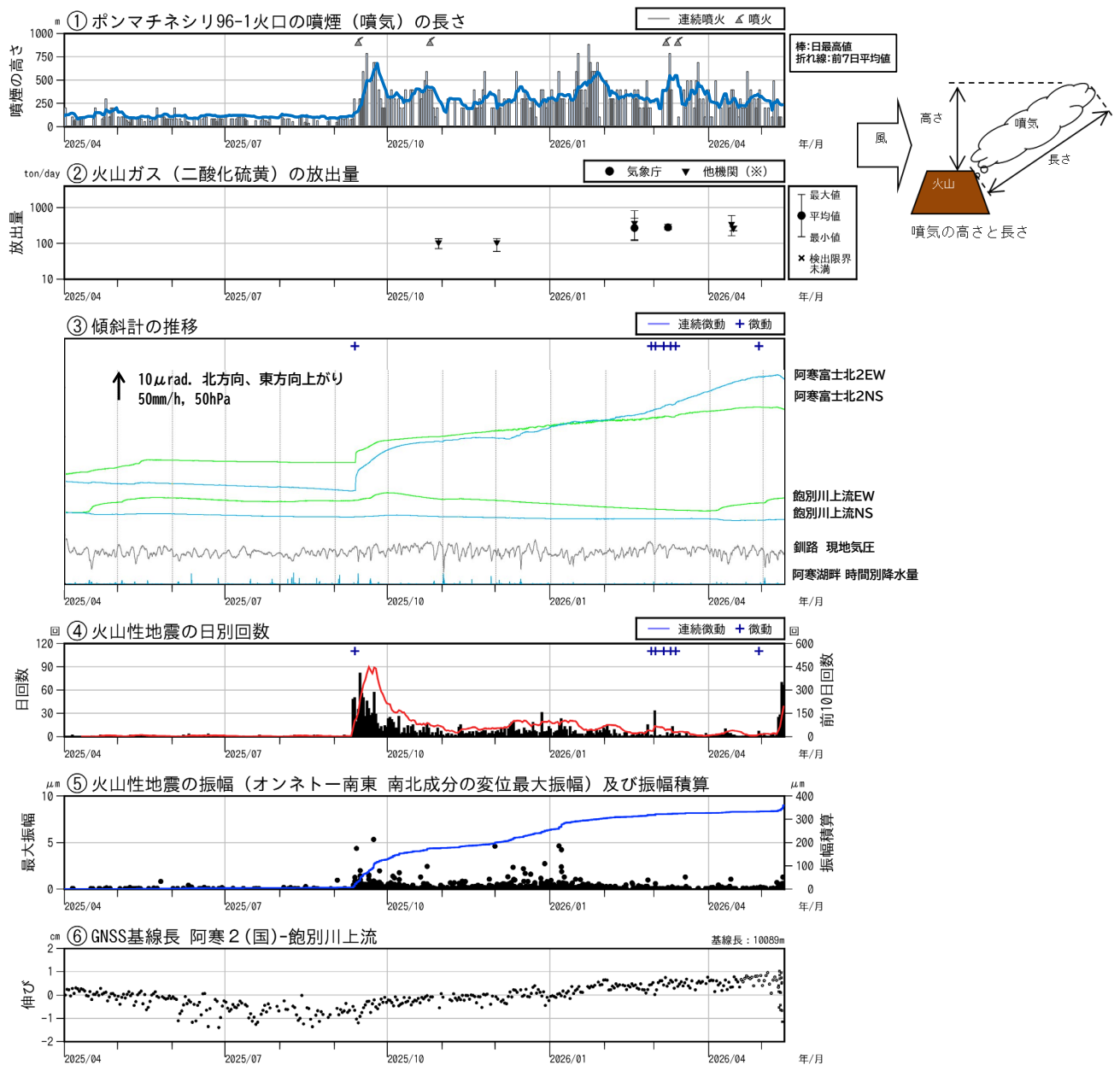


図3 雌阿寒岳 短期の火山活動経過図（2025年4月～2026年5月13日09時）

- ・①の噴気の長さについては横の説明図を参照ください。
- ・②他機関（※）は北海道大学及び機動的な調査観測・解析グループ（北海道大学・東京大学・防災科学技術研究所）の観測を示します。
- ・③の傾斜計データは降水や気圧変動の影響と考えられる変動が含まれています。
- ・2025年9月の噴火は、9月12日から15日の間に発生したと考えられます。
- ・期間内に発生した火山性地震はポンマチネシリ火口付近の浅部で発生したものが多数を占めています。
- ・⑥のGNSS基線は、図7の基線番号⑨に対応します。
- ・5月10日頃からポンマチネシリ火口付近を震源とする火山性地震が増え始め、11日夕方以降、さらに増加しています。
- ・2025年9月以降、ごく小規模な噴火が時々発生しています。3月16日以降、噴火は観測されていません。
- ・雌阿寒岳の南東及び北東山麓の観測点によるGNSS基線では、2025年8月末以降、伸長傾向が続いています。

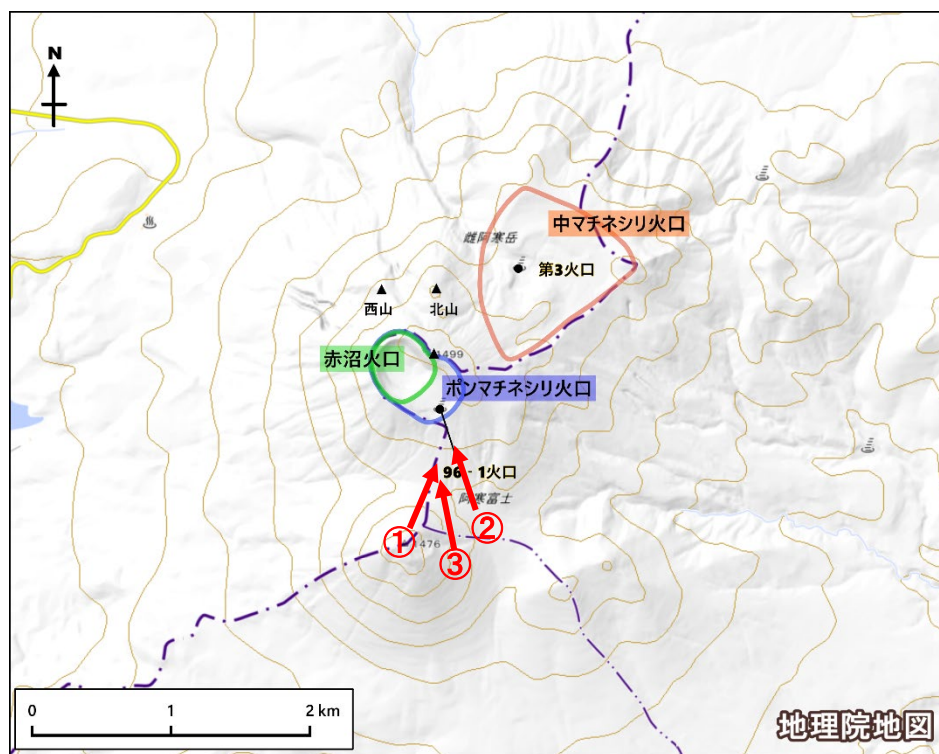


図4 雌阿寒岳 写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）と火口周辺図



図5 雌阿寒岳 ポンマチネシリ 96-1 火口周辺の状況
南南西側上空（図4の①）から撮影
・ポンマチネシリ 96-1 火口では、引き続き活発な噴煙活動が認められました。

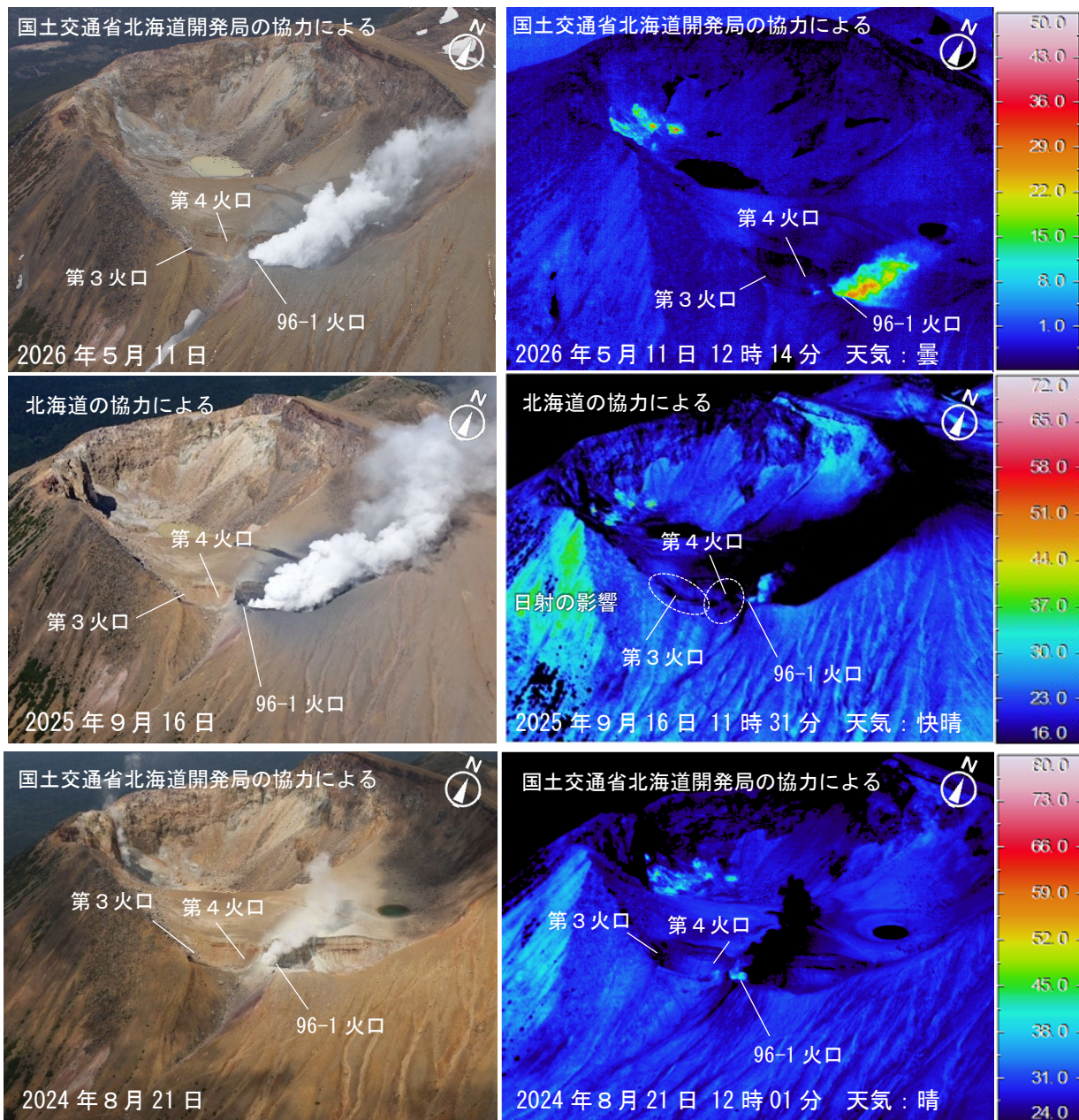


図6 雌阿寒岳 赤外熱映像装置によるポンマチネシリ第3、第4火口の地表面温度分布

上図 南南東側上空（図4の②）から撮影

中、下図 南南東側上空（図4の③）から撮影

- ・ 前回の観測（2025年9月16日）と同様にポンマチネシリ96-1火口の噴煙の温度が高い状態であることを確認しました。
- ・ ポンマチネシリ第4火口内では、引き続きわずかな地熱域が認められました。

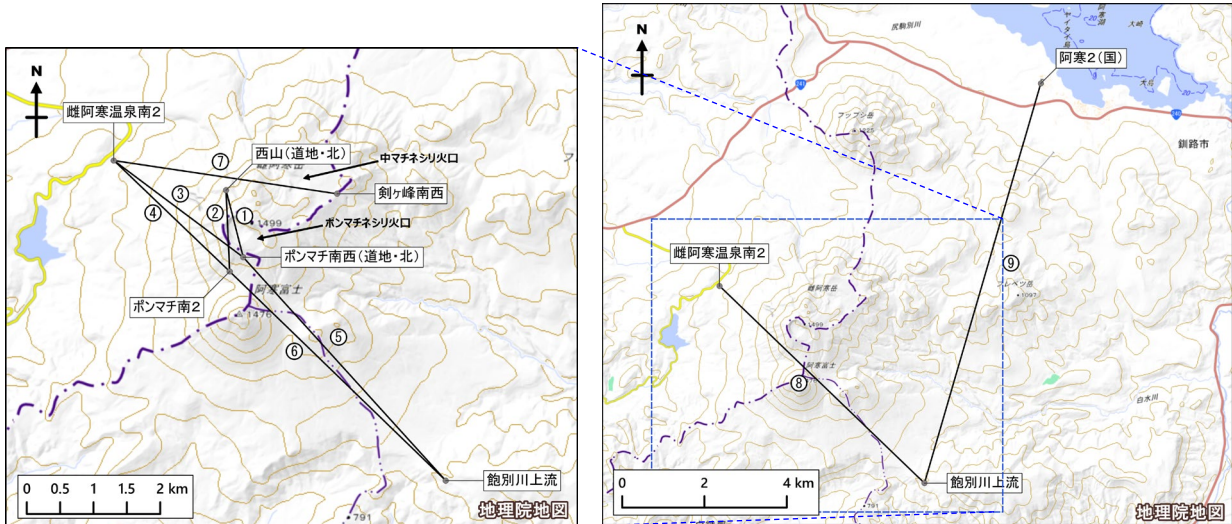
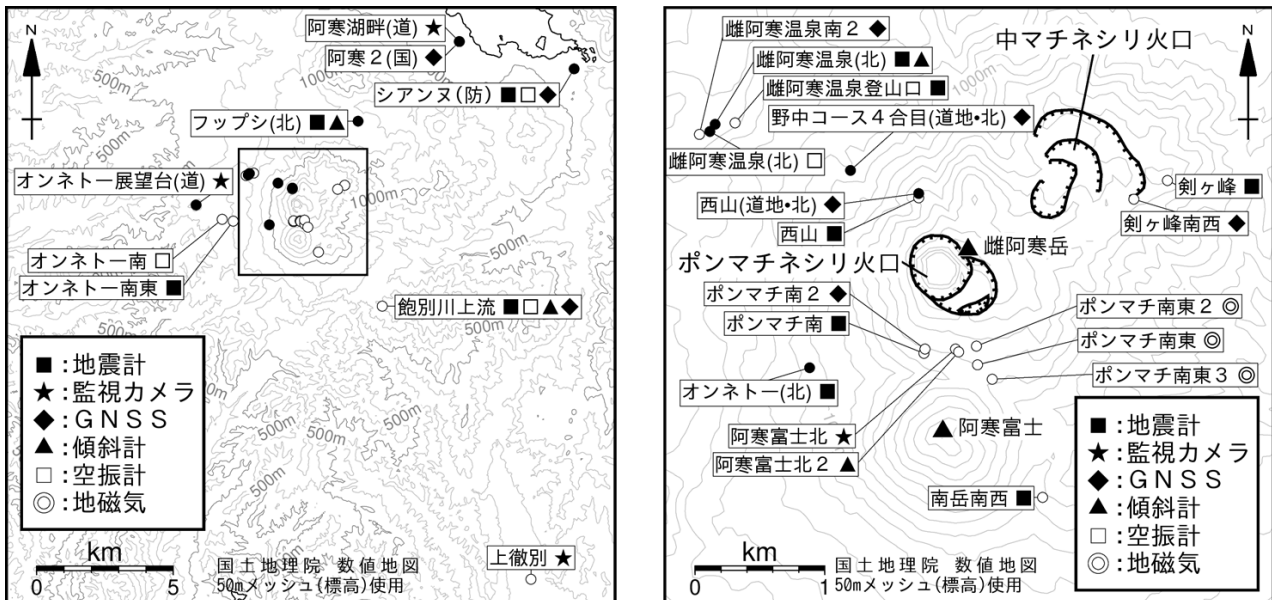


図7 雌阿寒岳 GNSS連続観測の基線図

・基線番号⑨は、図3のグラフ⑥に対応します。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は他機関の観測点位置を示しています。左図中の四角囲みは右図の表示範囲を示します。
(国): 国土地理院、(北): 北海道大学、(防): 国立研究開発法人防災科学技術研究所、(道): 北海道、
(道地): 地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所

図8 雌阿寒岳 観測点配置図